



2022年9月30日

各 位

会社名 フィードフォースグループ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 塚田 耕司  
 (コード番号：7068 東証グロース)  
 問合せ先 グループ執行役員グループ担当 西山 真吾  
 (TEL. 03-5846-7016)

## 2023年5月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の公表 及び2023年5月期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年6月30日において、2022年5月期決算発表時に未定としておりました損益情報について、2023年5月期第2四半期(累計)連結業績予想数値(2022年6月1日～2022年11月30日)を下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年5月期決算発表時に連結売上高を除き未定としておりました損益情報について、2023年5月期(2022年6月1日～2023年5月31日)の連結業績予想を下記のとおりお知らせいたします。なお、2022年6月30日に公表しておりました連結売上高について、業績予想を上方修正いたします。

### 記

#### 1. 2023年5月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の公表(2022年6月1日～2022年11月30日)

(単位：百万円)

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績(A)	1,373	592	507	508	311	11円99銭
今回発表予想(B)	1,837	486	360	353	△40	△1円54銭
増減額(B)－(A)	464	△106	△147	△154	△352	△13円53銭
増減率(%)	33.8	△17.9	△29.0	△30.4	－	－

(注) 1. EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

2. 1株当たり当期純利益は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

当社は、2021年10月14日付「株式譲受及び第三者割当増資引受によるシッピーノ株式会社の連結子会社化に関するお知らせ」及び2021年12月17日付「株式取得による株式会社フラクタの連結子会社化に関するお知らせ」にて公表しました通り、EC事業者に対して出荷関連の業務を自動化するサービス「シッピーノ」及びECに特化したノーコードツール「TePs(テープス)」を提供するシッピーノ株式会社(以下、「シッピーノ社」)並びにブランディング戦略策定からECサイト構築支援、クリエイティブ制作などをワンストップで手掛ける株式会社フラクタ(以下、「フラクタ社」)を、前連結会計年度において連結子会社としております。

また、2021年12月28日付「当社連結子会社の会社分割(新設分割)に関するお知らせ」にて公表した通り、シッピーノ社からテープス事業及びEC関連事業をテープス株式会社(以下、「テープス社」)として、新設分割しております。

前第3四半期連結会計期間及び前第4四半期連結会計期間に取得したフラクタ社、テープス社及びシッピーノ社の売上高が前第2四半期連結累計期間の売上高には含まれていないため、前第2四半期連結累計期間より464百万円売上高が増加し、当第2四半期連結累計期間では1,837百万円の売上高となる見込みです。また、営業利益は、DX事業におけるプロダクト開発やマーケティング等の人件費の計上により、前第2四半期連結累計期間から147百万円減益となり、当第2四半期連結累計期間では360百万円の営業利益となる見込みです。

本日公表しました「特別損失の計上に関するお知らせ」の通り、シッピーノ社及びテープス社に関

連するのれんについて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失として343百万円を特別損失に計上しております。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純損益は、前第2四半期連結累計期間から352百万円減少し、当第2四半期連結累計期間では40百万円の赤字を計上する見込みであります。

## 2. 2023年5月期(累計)連結業績予想数値の公表 (2022年6月1日～2023年5月31日)

(単位：百万円)

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	3,681	-	-	-	-	-
今回発表予想 (B)	3,829	1,090	848	832	419	16円01銭
増減額 (B) - (A)	148	-	-	-	-	-
増減率 (%)	4.0	-	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (C) (2022年5月期)	3,005	1,138	930	912	603	23円20銭
増減額 (B) - (C)	824	△47	△82	△81	△184	△7円19銭
増減率 (%)	27.4	△4.2	△8.9	△8.9	△30.5	△31.0

(注) 1. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

2. 1株当たり当期純利益は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

当社は、2023年5月期連結業績予想の損益情報につきましては、合理的な数値の算出が困難であったため、これまで開示を見合わせておりましたが、算定が可能となりましたので、開示いたします。

当社は、2025年5月期までに、売上高5,000百万円、営業利益2,000百万円、ROE20%を達成することを中期の目標としております。この目標達成に向けて、2023年5月期の業績予想を、前回発表予想時点では売上高3,681百万円としておりました。

プロフェッショナルサービス事業において、前連結会計年度における一部の主要顧客の解約及び広告予算減少の影響があったものの、デジタルマーケティング需要の高まりを背景とした人材業界等の既存顧客及び新規顧客からのインターネット広告の需要の高まりにより広告予算は底堅く推移しているため、売上高は前連結会計年度2,011百万円から当連結会計年度2,006百万円とほぼ同水準を見込んでおります。また、当連結会計年度は、2024年5月期以降の着実な成長のための、戦略的な人材採用及び人材育成期間と捉えており、営業利益は前連結会計年度930百万円から当連結会計年度848百万円に減少する見込みであります。

SaaS事業において、当連結会計年度においても、ソーシャルログイン・メッセージ配信ツールである「CRM PLUS on LINE」やデータフィード広告管理ツールである「dfplus.io」を中心に、今後も順調な業績の積み上げを想定しているため、売上高は前連結会計年度734百万円から当連結会計年度911百万円、営業利益は前連結会計年度433百万円から当連結会計年度506百万円へと増加する見込みであります。

DX事業においては、前期下期に取得したフラクタ社、テープス社、シッピーノ社の売上高が当連結会計年度では年間を通じて貢献することに加え、リリース済みShopifyアプリ収入等による売上高が着実に増加する見込みであるため、売上高は前連結会計年度261百万円から当連結会計年度912百万円に大幅に増加する見込みであります。一方、当連結会計年度は、戦略的にプロダクト開発、マーケティング等の人件費を先行投資している期でもあるため、営業赤字は前連結会計年度249百万円から当連結会計年度356百万円に増加する見込みであります。

以上の結果、連結売上高は前連結会計年度3,005百万円から当連結会計年度3,829百万円へと増加し、営業利益は前連結会計年度930百万円から当連結会計年度848百万円に減少する見込みであります。

また、本日公表「特別損失の計上に関するお知らせ」の通り、当社が保有するシッピーノ社及びテープス社に連するのれんについて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失として343百万円を特別損失に計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度603百万円から当連結会計年度419百万円に減少する見込みであります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上